

令和8年7月6日

医療事故の調査結果と再発防止策について

1 利用者様に関する基本情報

10歳代、男性

2 概要

令和6年2月8日～19日	当院に短期入所され、19日まで個室で過ごされた。
令和6年2月19日17:58	看護師が入室し、床頭台上にて定時薬の準備を行い、口腔鼻腔からの吸引を行った。看護師二人で、利用者を左側臥位にし、ナーセントパットを背中につけ、その下にスネークミニクッションを入れ腹側にはクッションを置かなかった。 看護師が内服を胃ろうから注入した。看護師の一人は退室した。
令和6年2月19日18:01	看護師が2回目の内服を注入し、退室した。
令和6年2月19日18:03	看護師が氷枕を持って入室し、利用者の身体をベッド柵と平行になるくらいの左側臥位とし、背中に氷枕を入れた。 その時、利用者の体幹が前傾気味となり、身体の反り返り、足の突っ張りが強くなり、看護師がその様子を見ずに退室した後、腹臥位となった。酸素飽和度モニターは装着されていなかった。
令和6年2月19日18:32	看護師は2度入室したが、腹臥位に気づかず退出した。
令和6年2月19日18:33	下咽頭チューブを挿入するため、看護師が入室し、ベッドサイドでナーセントパット、スネークミニクッションを外した。 利用者を腹臥位から仰臥位にしたところで呼吸停止に気づき、ナーコールを押し、胸骨圧迫を開始した。 医師が到着し蘇生処置を実施した。
令和6年2月19日19:46	死亡を確認した。

3 調査結果

本事例は、利用者様が腹臥位に陥ったことによる、鼻口閉鎖による窒息、喀痰の誤嚥による呼吸不全により亡くなられたと考えられました。①側臥位の姿勢保持が不十分であったため腹臥位に陥ったこと、②経皮酸素飽和度モニターの装着がなく心肺停止状態の発見に長時間を要したことの2点が重なったことが、主な直接的原因であると考えられました。

①の原因については、1)側臥位を適切に保持できる標準的な業務手順がなかったこと、2)個々の利用者様に応じた側臥位の姿勢保持の手順が職員間で策定・共有されていなかったこと、3)利用者様が側臥位から腹臥位になる危険性について、ほとんどの職員が認識せずケアを行っ

ており、施設の医療体制及び看護体制が標準レベルに達しておらず、かつ直接の要因となった体位保持が看護ケアの標準に到達していなかったことの3つの要因が挙げられました。

②の原因については、1) 経皮酸素飽和度モニターの装着に関する基準が個々の状況によって曖昧であったこと、2) 個々の利用者様に対し経皮酸素飽和度モニターをどのように使用するかのアセスメントが不十分であったことの2つの要因が挙げられました。

4 再発防止策

(1) 業務および技術的要因

① 側臥位の標準作業手順書の見直し

・角度、使用物品について具体的に記載した手順書を作成しました。(令和6年5月より実施済み)

② 経皮酸素飽和度モニター装着基準の策定と職員への指導

・短期入所者様は経皮酸素飽和度モニターの装着を終日行うことを基本としましたが、安静保持が困難な方も多く、原則ベッド上臥床時に装着と変更しました。(令和6年2月より実施済み)

・体動・不穏等により、モニター装着をできない場合、就寝後可能な限り装着としました。

・覚醒時に経皮酸素飽和度モニターの装着ができない短期入所者様については、装着のタイミングを利用者様ごとで検討し、装着が不可能な場合はベッド位置の変更など観察可能な体制を確保しました。(令和6年2月より実施済み)

③ 経皮酸素飽和度モニターの使用方法と必要なアセスメントの策定

・短期入所者のアラーム設定は、ご家族と入所時に確認し、状態変化により設定を変更する場合も家族の了解を得ることとしました。(令和6年2月より実施済み)

④ 体位・呼吸状態・窒息の可能性のアセスメント

・腹臥位は、腹臥位機器がある場合と、当施設で日常的に理学療法が行われている場合のみ入所中実施可能としました。(令和6年4月より実施済み)

⑤ 「短期入所説明・同意書」の作成

・体位・経皮酸素飽和度モニター装着を含めた「短期入所説明・同意書」を作成し、毎回入所毎にご家族と内容を確認することとしました。(令和7年2月より実施済み)

(2) チーム要因

・体位に関するケア、経皮酸素飽和度モニターの装着、窒息の可能性などについて個々の短期入所者様ごとにアセスメントを行い、適切な看護計画・個別支援計画を策定し実施することとしました。

(3) 組織的要因

・短期入所検討会議を立ち上げ、短期入所者について多職種で指示、安全面について協議を行うとともに、業務の標準化を確立することとしました。(令和6年4月より実施済み)

問合せ先

横浜医療福祉センター港南

管理部長 矢後 勝之

電話 045-830-5757 (代表)